

清原物語

(21)

いにしえと緑の学園

科学技術教育に特色 (宇都宮清陵高校)

栃木県立宇都宮清陵 時中に清原飛行場の施設があったといわれ居跡や土器が地下に眠る。また北側2万㎡は平地林で、現在も「清陵の森」として一部が残されている。鳥が訪れ、四季折々の季節の変化を楽しむことができる。この森は古代の遺跡と共に、同校の特色を形づくっている。

校舎建設に先立って行なわれた遺跡調査では竪穴式住居跡2軒と共に、縄文時代早期から弥生時代中期までの土器、土師器、石器、礫などの遺物が数多く出土した。土器だけでも約860点にのぼる。その一部は同校の校長室に陳列されている。敷地の北西部には戦

83(昭58)年5月、当時の船田譲知事が「宇都宮大学清原農場跡地を買収し、その一部に高校を建設したい。普通科であっても技術を学べる」という特色を持たせたい」と記者会見

で述べ、同校建設が具

体化した。

翌84年4月には宇都宮北高校に開設準備室が置かれた。教育内容はテクノポリス構想との関連を踏まえて、「実験・実習を通して技術に対する関心を高め

る」とされた。その教育内容を指針として、「科

学技術教育」が取り入れられ、同教育は同校の特色となってきた。

同準備室では学則や生徒心得、教育目標、教育課程、制服、校歌、校章などが検討された。

生徒指標は「より広くより深く、そしてより高く」とされた。同指標について初代校長

の江連眞木

夫氏は「わかり易く口ずさめる形で作ろうと

ある時ふっと口をついて出たものだった」と記念誌で述べてい

る。

校名は歴史的な地域

名「清原」と古代から現代に至る地域文化の特性を形成した「丘陵」とを組み合わせたもの

になった。84年12月に栃木県立宇都宮清陵高等学校として設置条例に

記載された。

校歌は当時博物館長だった渡辺幹雄氏に、作曲は箏曲家の坂本勉氏に依頼した。スクー

ルカラーは水色(清陵カラー)で、制服にも使われている。

85年4月6日に入学式が行われ、188人の生徒が入学した。

同校の敷地は約7万7千㎡で県内の普通高

校としては2番目に広い。普通高校としては珍しい科学技術棟が設置され、管理棟、体育館

兼講堂、プールなどが

建った。93(平成5)年には第2体育館が建設された。

2012(平成24)年度からは科学技術教育は「科学技術リテラシー教育」となった。1年生を対象に実習を通して学ぶ科学技術A(全員必須)が行なわれ、2、3年生は科学技術Bを学んでいる。

白相寛校長は「吹奏学部は東関東コンクールに出場していますし、陸上部や柔道部、テニス部などの活躍もあり、文化、体育の部活動も活発です」と話している。

来年度から通学区域が廃止されるため、芳賀郡など学区外からの入学生も多くなると予想されている。(坂本)



清原工業団地近くの宇都宮清陵高校